

第2章 太宰府市における自殺の現状

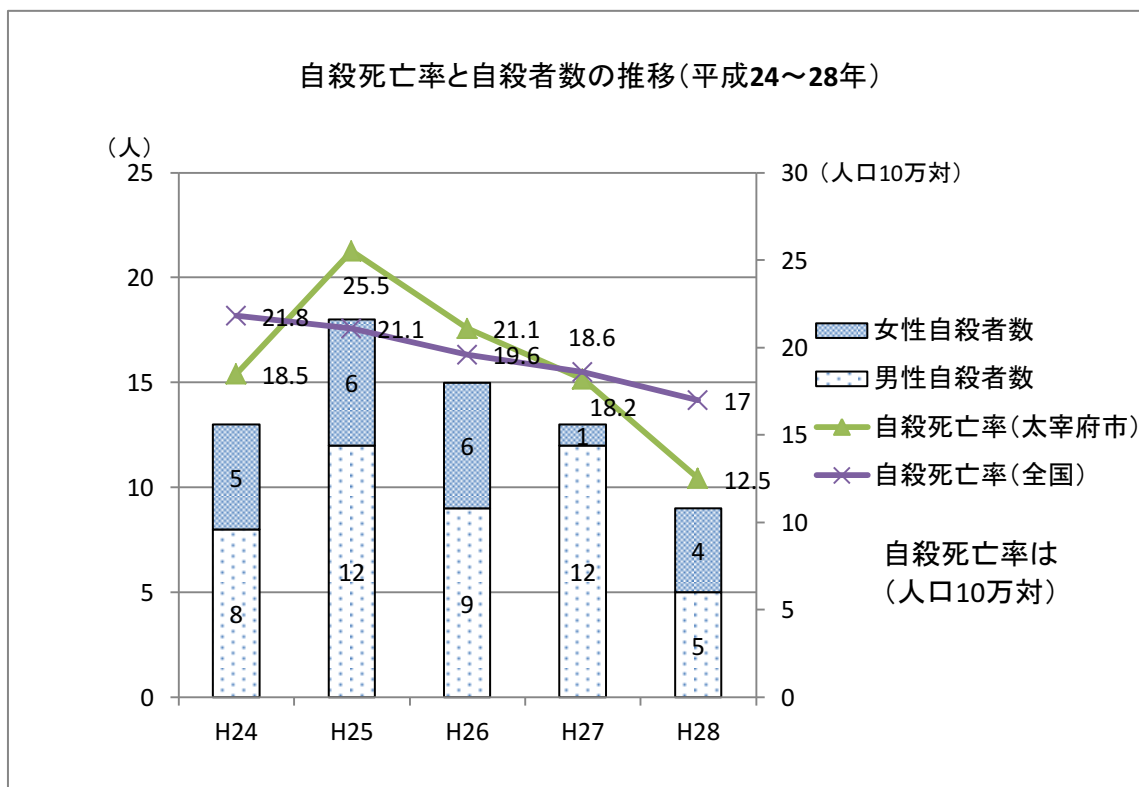
1 はじめに

実効性ある自殺対策を推進するためには、地域の自殺の現状を正確に把握する必要があります。そのため本市では、自殺総合対策推進センターが各自治体の実態をまとめた「地域自殺実態プロファイル」を活用し、多角的な視点で自殺の現状分析に努めました。

2 統計データから見る太宰府市の自殺の現状

① 年間自殺者は平均 13.6 人、自殺死亡率は全国と同水準である

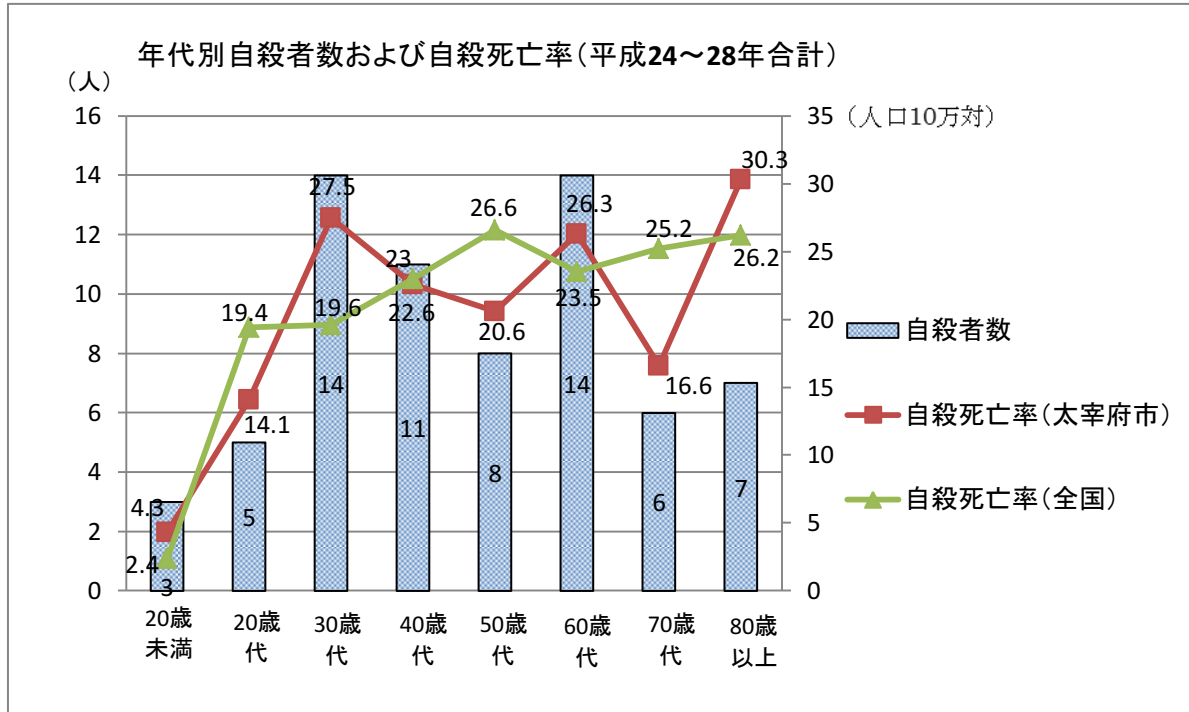
平成 24～28 年の間に自殺で亡くなった人の数は 68 人（年間平均 13.6 人）です。自殺死亡率 5 年間の平均は 19.1 と、全国の平均 19.6 と同水準となっています。



出典：自殺総合対策推進センター

②20歳未満、30歳代、60歳代、80歳以上の自殺死亡率が高い

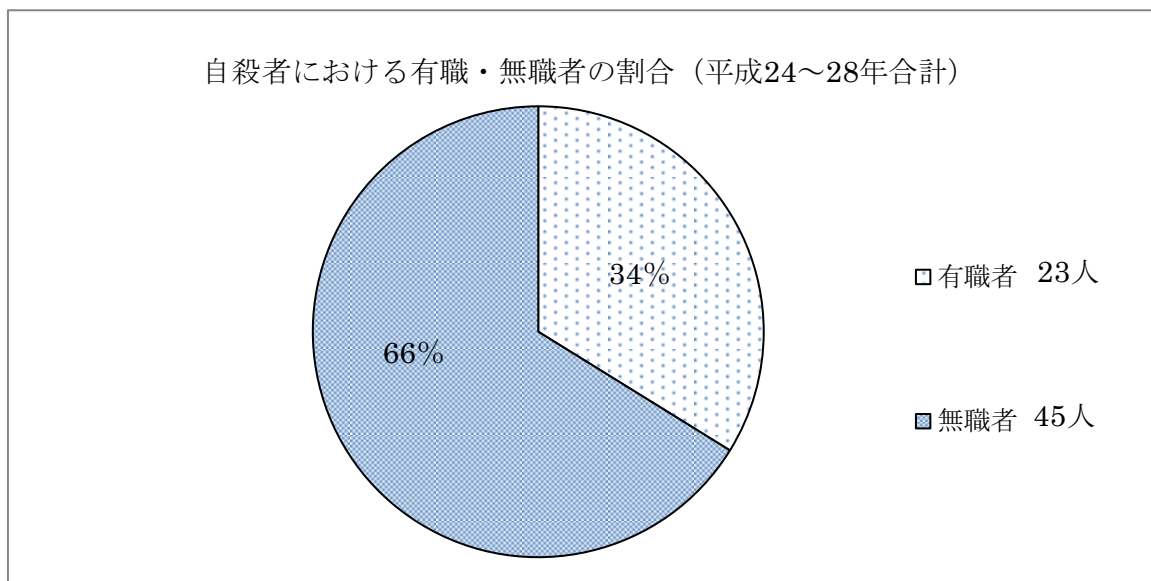
平成24～28年の期間の自殺死亡率を年代別に見ると、20歳未満・30歳代・60歳代・80歳以上は全国と比較して高い値を示しています。



出典：自殺総合対策推進センター

③自殺者の約7割が無職者

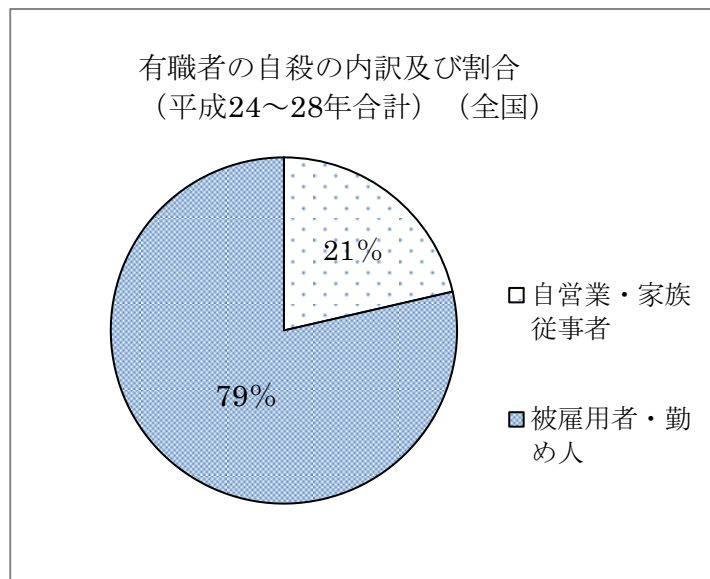
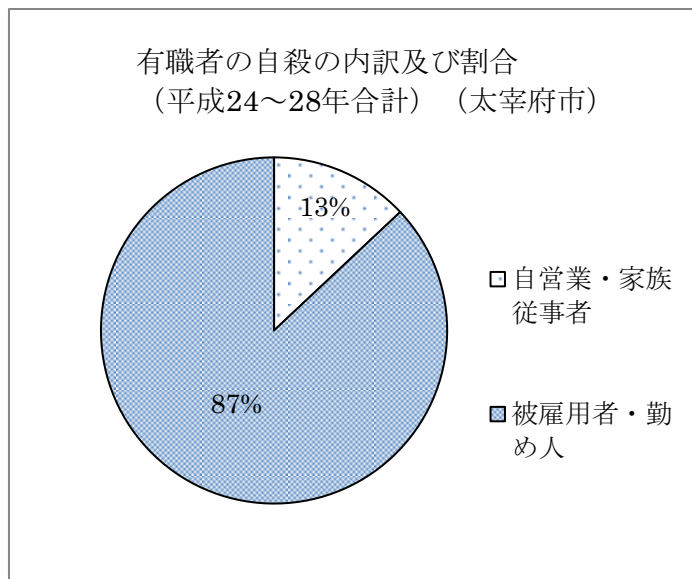
有職者・無職者の割合を見ると、過去5年間(平成24～28年)に自殺で亡くなった68人のうち、約7割は無職者です。



出典：自殺総合対策推進センター

④有職者の自殺者数の約9割が被雇用者・勤め人

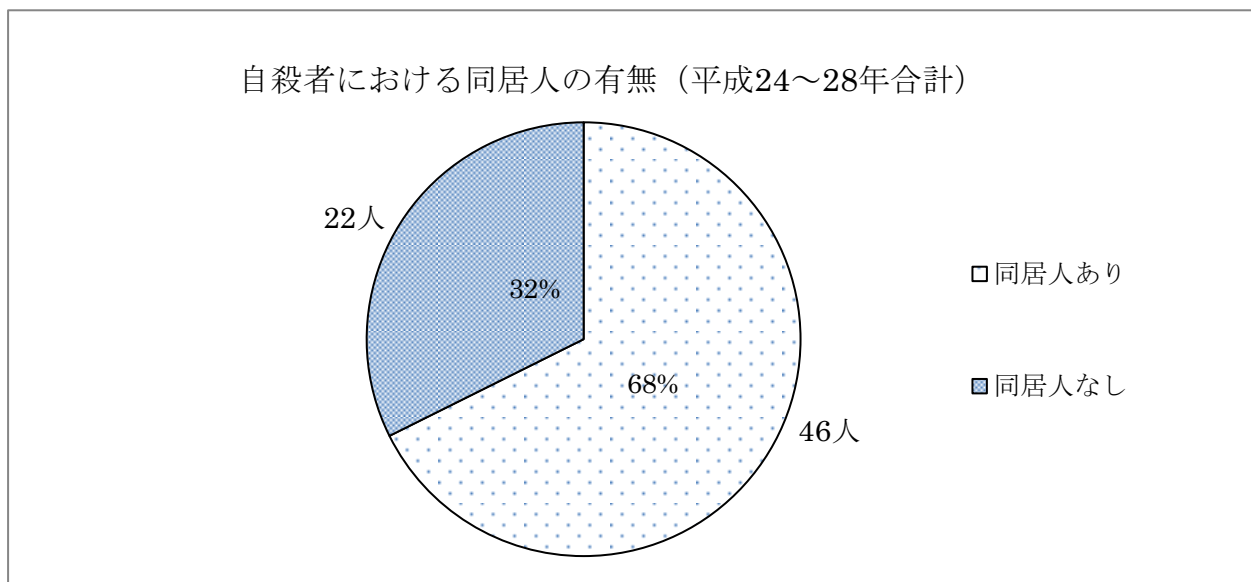
過去5年間（平成24～28年）の自殺で亡くなった有職者23人のうち、約9割は被雇用者・勤め人で、これらは全国と比較して高い値を示しています。



出典：自殺総合対策推進センター

⑤自殺者の約7割に同居人がいた

同居人の有無別で見ると、過去5年間（平成24～28年）に自殺で亡くなった68人のうち、同居人がいる人の割合が68%でした。



出典：自殺総合対策推進センター

⑥ 支援が優先されるべき対象群

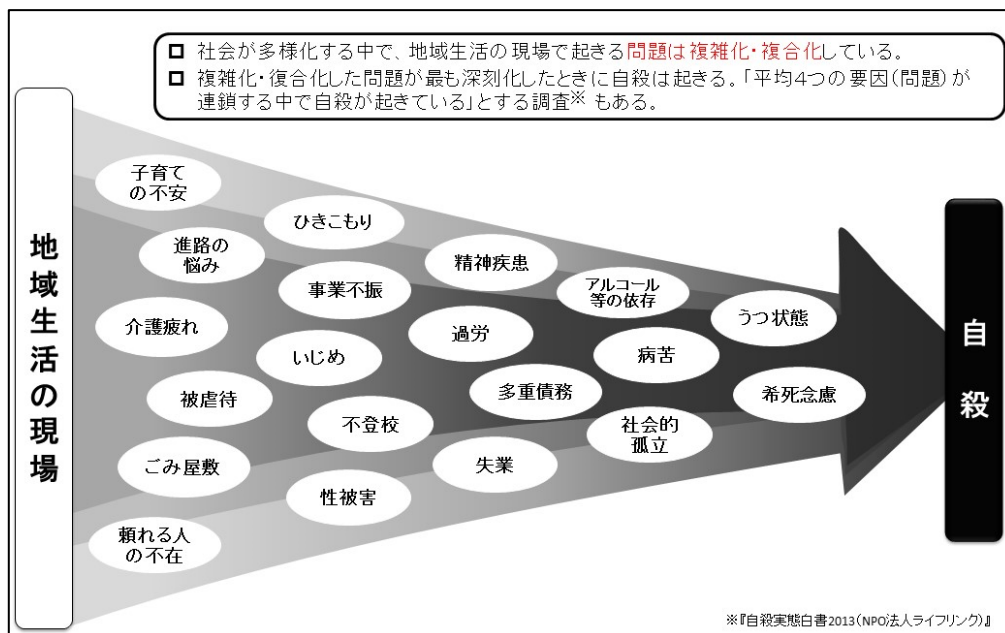
平成 24～28 年の 5 年間における自殺の実態について、自殺総合対策推進センターの「地域実態プロファイル」により、本市において自殺で亡くなる人の割合の多い上位 5 区分が示されました。

この情報および自殺の現状分析から、本市において推奨される対象群として「子ども・若者」「生活困窮者」「高齢者」に対する取組を重点的に支援します。

【太宰府市の主な自殺の特徴（プロファイル）】

上位 5 区分	自殺者数 H24～28年 計	割合	背景にある主な自殺の危機経路
1位：男性60歳以上無職独居	7	10.3	失業(退職)+死別・離別→うつ状態 →将来生活への悲観→自殺
2位：男性60歳以上無職同居	7	10.3	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+ 身体疾患→自殺
3位：女性60歳以上無職同居	7	10.3	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位：男性20～39歳有職同居	6	8.8	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態 →自殺
5位：男性40～59歳有職同居	6	8.8	配置転換→過労→職場の人間関係の 悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺

出典：自殺総合対策推進センター

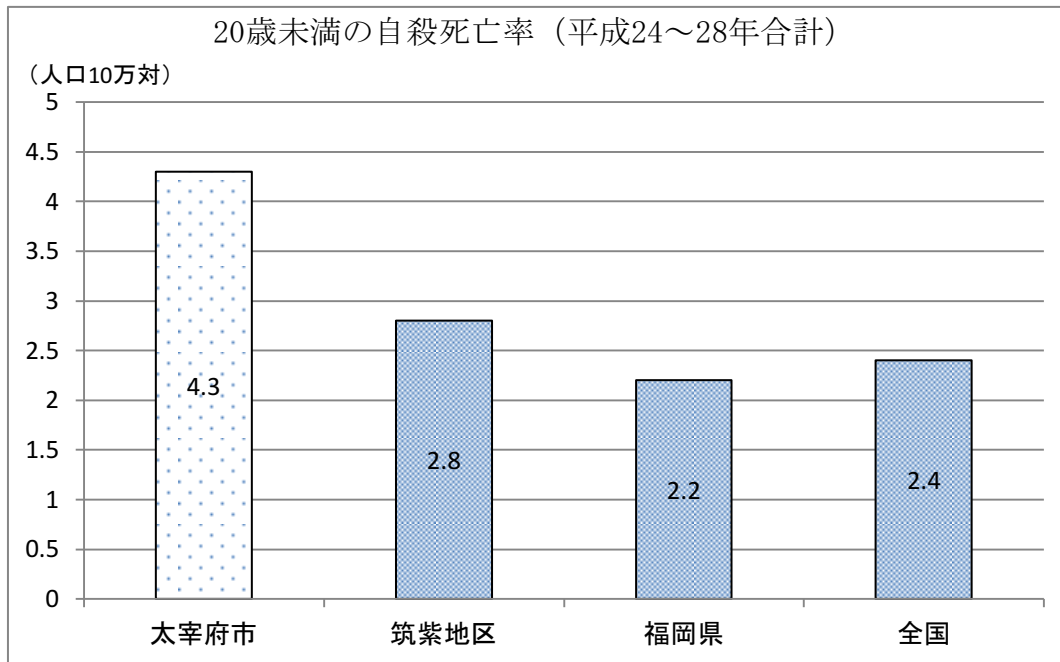


自殺の危機要因イメージ図（厚生労働省資料）

年代別① 20歳未満

(1) 20歳未満の自殺死亡率は筑紫地区、福岡県、全国と比べて高い

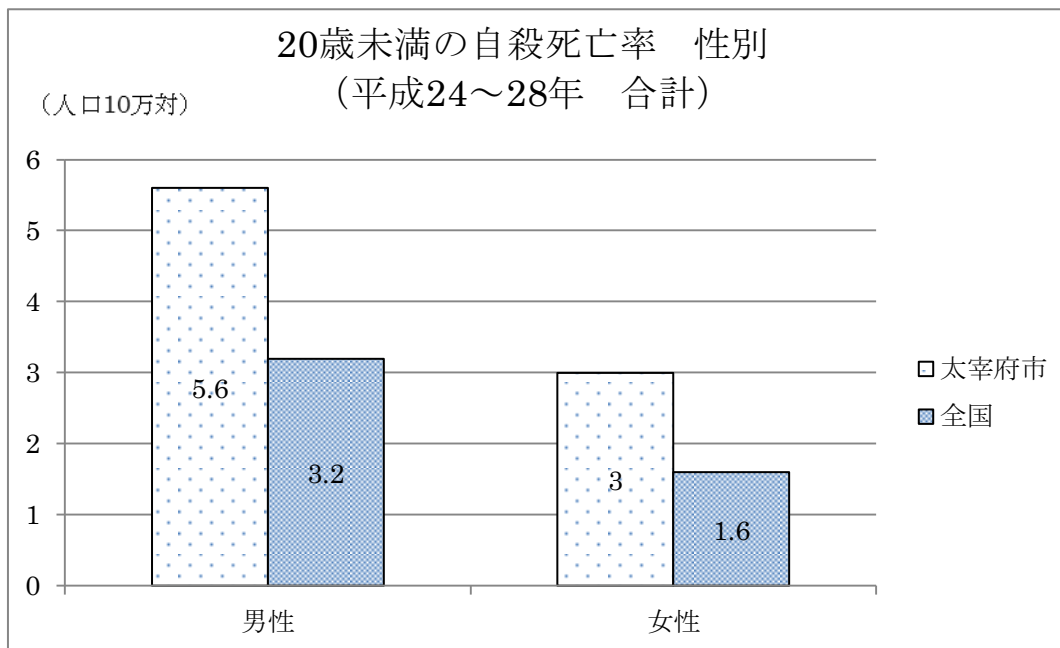
過去5年間（平成24～28年）の自殺死亡率は、筑紫地区、福岡県、全国のいずれよりも高い値を示しています。



出典：自殺総合対策推進センター

(2) 自殺死亡率は男性が高い

全国の自殺死亡率と比較しても、20歳未満の自殺死亡率は男女ともに高い傾向にあります。また、女性に比べて男性の方が自殺死亡率は高い傾向にあります。

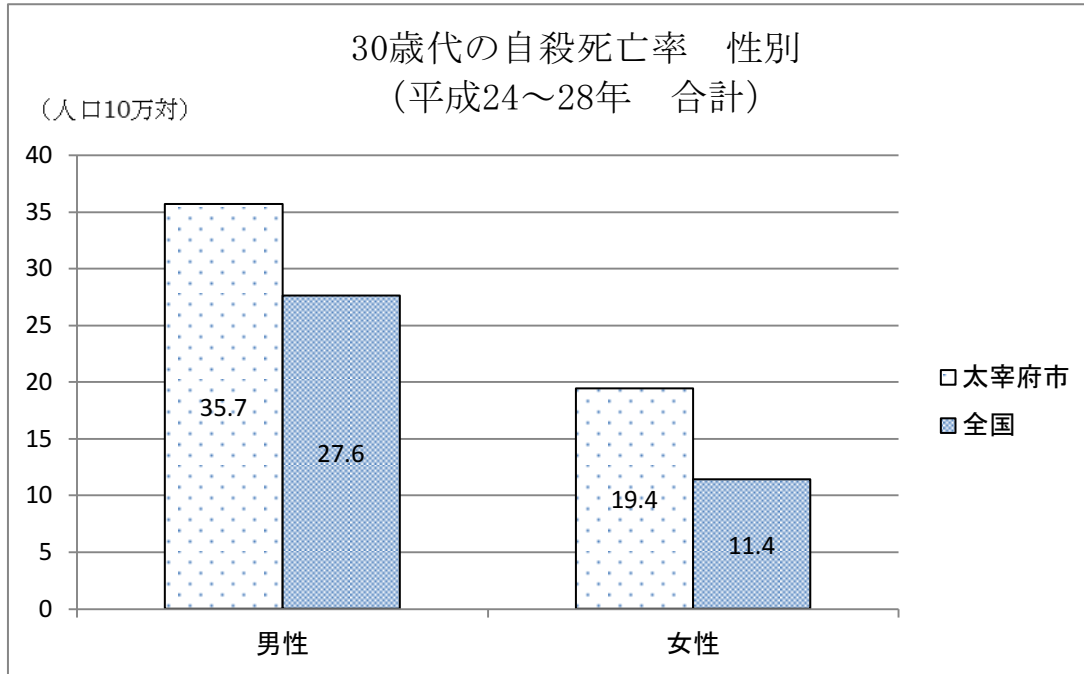


出典：自殺総合対策推進センター

年代別② 30歳代

(1) 自殺死亡率は男性が高い

全国の自殺死亡率と比較しても、30歳代の自殺死亡率は男女ともに高い傾向にあります。また、女性に比べて男性の方が自殺死亡率は高い傾向にあります。



出典：自殺総合対策推進センター

(2) 生活状況別の自殺の背景にある主な危機経路の例

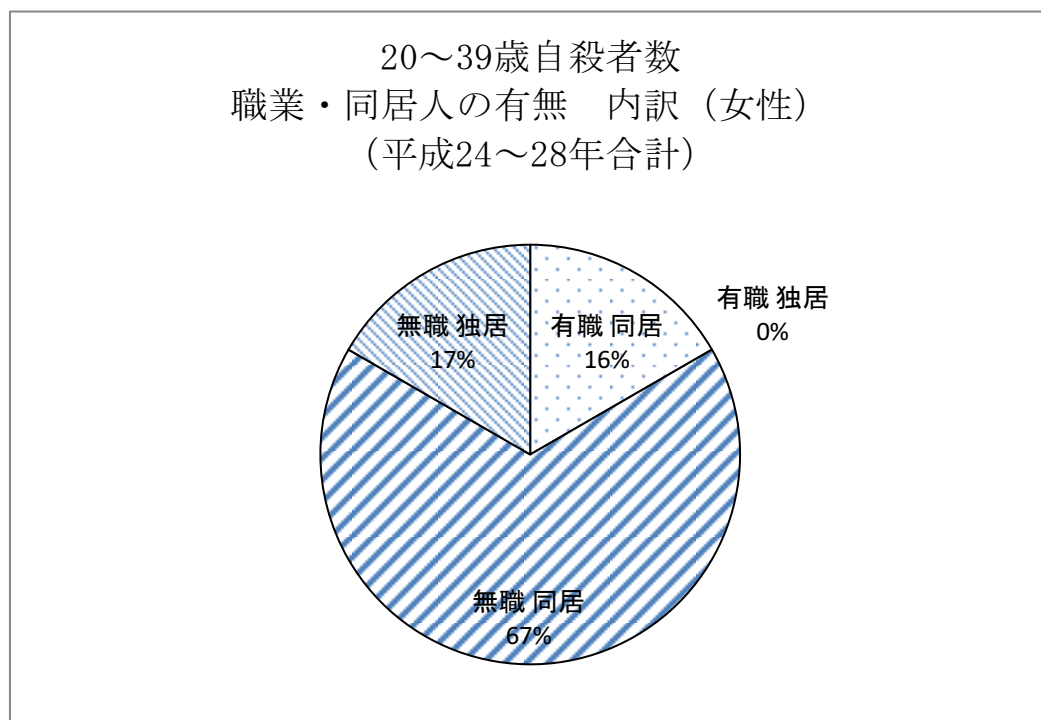
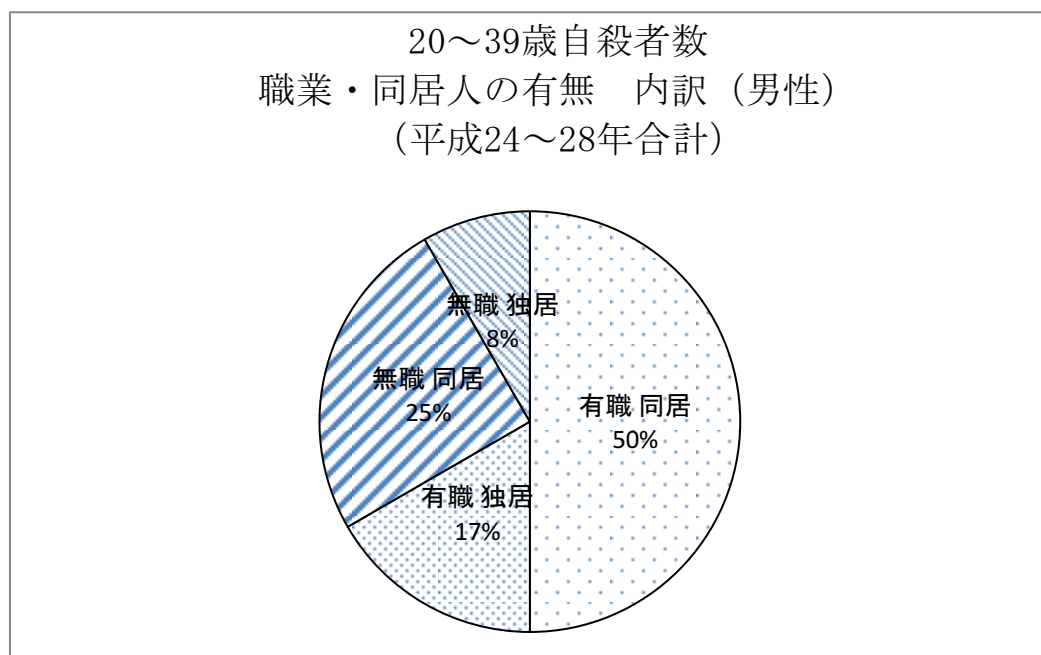
自殺の背景にある主な危機経路のうち20～39歳を参考にすると、失業、生活苦などの経済・生活問題や、職場の人間関係、仕事の悩みなどの勤務問題が多く見受けられます。

男性	20～39歳	有職	同居	職場の人間関係／仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
			独居	①【正規雇用】配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺／②【非正規雇用】(被虐待・高校中退)非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺
		無職	同居	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺 ②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
			独居	①【30代その他無職】失業→生活苦→多重債務→うつ状態→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→うつ状態→自殺
女性	20～39歳	有職	同居	離婚の悩み→非正規雇用→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	① 非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺 ② 仕事の悩み→うつ状態→退職／復職の悩み→自殺
		無職	同居	DV等→離婚→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	①【30代その他無職】失業→生活苦+うつ状態→孤立→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→就職失敗+うつ状態→自殺

出典：自殺総合対策推進センター

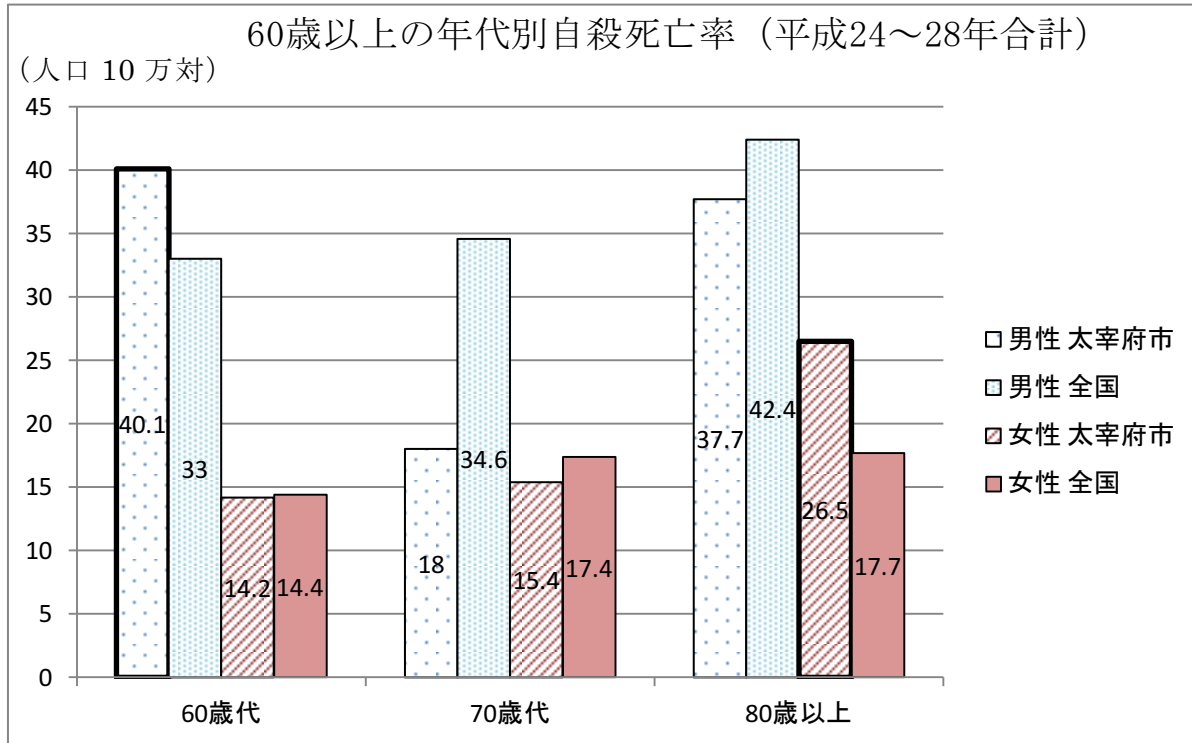
(3) 男性は「有職・同居」女性は「無職・同居」の割合が高い

20～39歳の自殺死亡者のうち、男性は「有職・同居」、女性は「無職・同居」の割合が高い傾向にあります。自殺の背景にある主な危機経路の例によると、それらの男性は勤務問題、女性は離婚から連鎖し生活苦等の経済・生活問題、また子育ての悩み等の家庭問題などが自殺の背景として挙げられています。



年代別③ 60歳以上

(1) 自殺死亡率を全国と比べると、男性は60歳代、女性は80歳以上が高い
全国と同様、全体的に女性に比べ男性の自殺死亡率が高い傾向にあります。さら
に全国と比べた際に、男性は60歳代の自殺死亡率が高く、女性は80歳以上の
自殺死亡率が高い傾向にあります。



出典：自殺総合対策推進センター

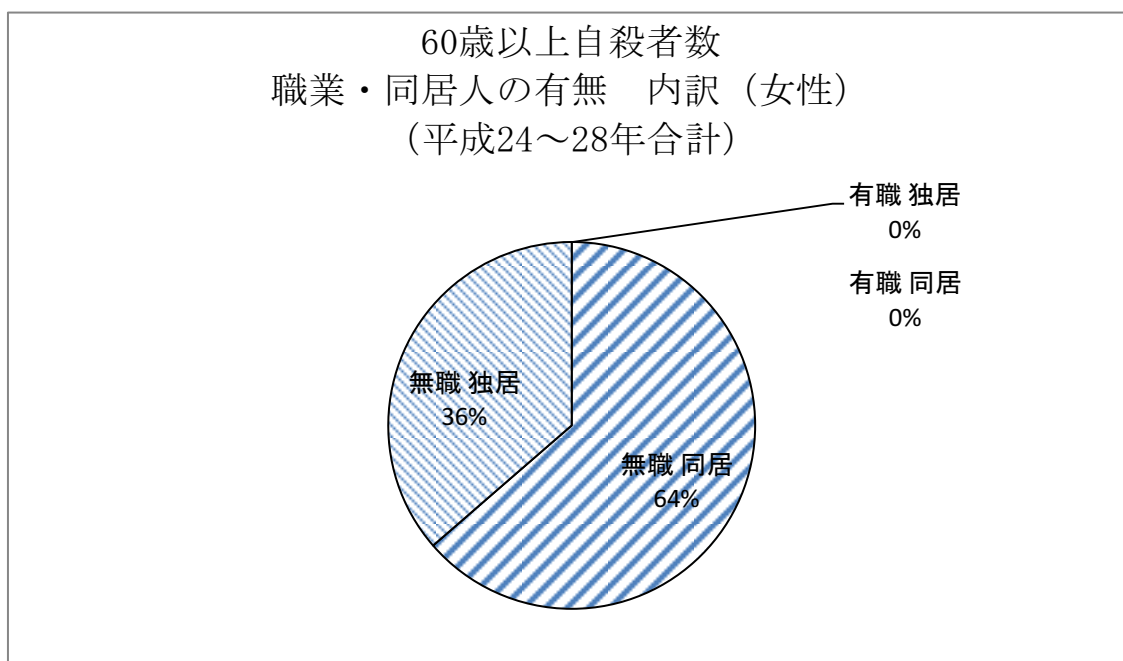
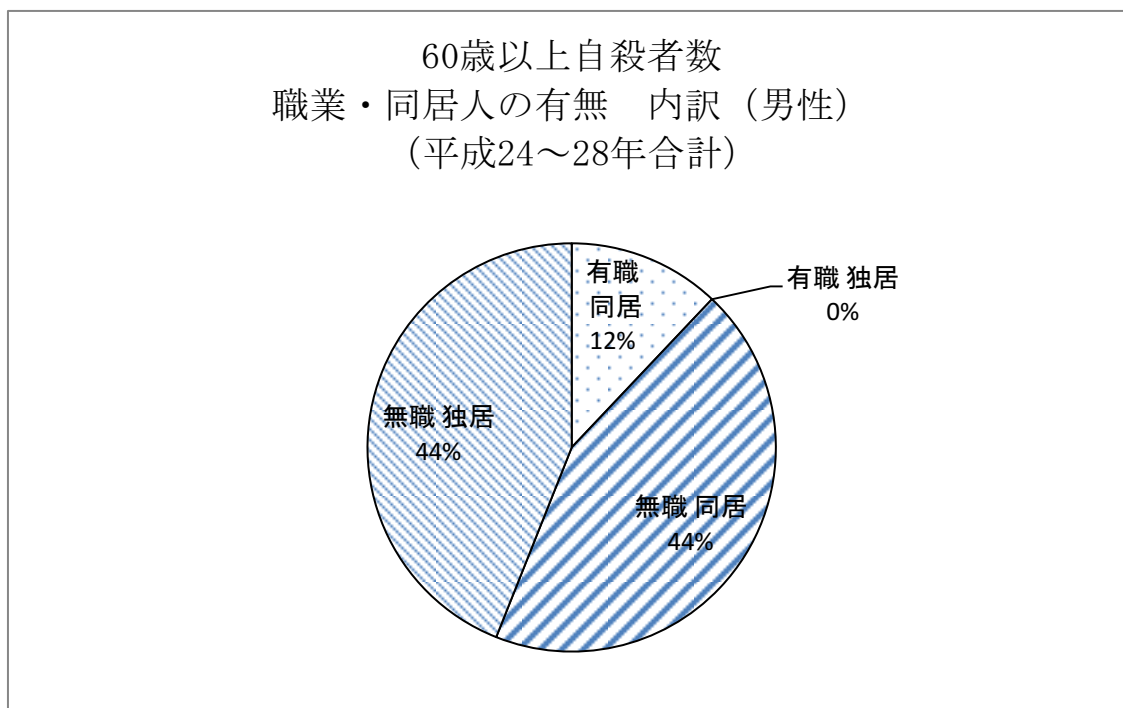
(2) 生活状況別の自殺の背景にある主な危機経路の例

自殺の背景にある主な危機経路の例のうち 60 歳以上を参考にすると、身体疾患やアルコール問題等の健康問題、死別・離別や介護疲れ等の家庭問題が多く見受けられます。

男性	60 歳以上	有職	同居	① 【労働者】 身体疾患 + 介護疲れ → アルコール依存 → うつ状態 → 自殺 ② 【自営業者】 事業不振 → 借金 + 介護疲れ → うつ状態 → 自殺
			独居	配置転換 / 転職 + 死別・離別 → 身体疾患 → うつ状態 → 自殺
		無職	同居	失業（退職） → 生活苦 + 介護の悩み（疲れ） + 身体疾患 → 自殺
			独居	失業（退職） + 死別・離別 → うつ状態 → 将来生活への悲観 → 自殺
女性	60 歳以上	有職	同居	介護疲れ + 家族間の不和 → 身体疾患 + うつ状態 → 自殺
			独居	死別・離別 + 身体疾患 → うつ状態 → 自殺
		無職	同居	身体疾患 → 病苦 → うつ状態 → 自殺
			独居	死別・離別 + 身体疾患 → 病苦 → うつ状態 → 自殺

出典：自殺総合対策推進センター

(3) 男性は「無職・同居」「無職・独居」、女性は「無職・同居」の割合が高い
 60歳以上の自殺者のうち、男性は「無職・同居」及び「無職・独居」の割合が高い傾向にあります。自殺の背景にある主な危機経路によると、「無職・同居」の男性は失業（退職）に連鎖して、経済・生活問題や家族問題、健康問題、「無職・独居」の男性は失業（退職）に加え死別・離別により独居になることが自殺の背景として挙げられています。女性は「無職」しかおらず、そのうち「同居」の割合が高い傾向にあります。自殺の背景として健康問題が挙げられています。



3 太宰府市における自殺の特徴

本市の自殺の実態に即した計画を策定するため、現状より分析を行い、本市の自殺をめぐる特徴を以下のとおりまとめました。

全体的特徴

- ① 年間自殺者は平均 13.6 人、自殺死亡率は全国と同水準である
- ② 20 歳未満、30 歳代若年者および高齢者の自殺死亡率が高い
- ③ 自殺者の約 7 割が無職者
- ④ 有職者の自殺者数の約 9 割が被雇用・勤め人
- ⑤ 自殺者の約 7 割に同居人がいた



自殺死亡率が高い年代に絞って職業や同居の有無などの分析を行った結果、以下の特徴が見えてきました。

年齢別① 20 歳未満

- 20 歳未満の自殺死亡率は、筑紫地区・福岡県・全国と比べて高い。
- 自殺死亡率は男性が高い。

年齢別② 30 歳代

- 自殺死亡率は男性が高い。
- 男性は「有職・同居」、女性は「無職・同居」の割合が高い。
- 自殺の背景にある主な危機経路の例
 - 男性：勤務問題
 - 女性：経済・生活問題

年齢別③ 60 歳代以上

- 自殺死亡率を全国と比べると、男性は 60 歳代、女性は 80 歳以上が高い。
- 男性は「無職・同居」「無職・独居」、女性は「無職・同居」の割合が高い。
- 自殺の背景にある主な危機経路の例
 - 男性：経済・生活問題、家族問題、健康問題
 - 女性：健康問題